

軟式野球競技実施要項

1. 試合方法
 - (1) トーナメント方式とする。
 - (2) 試合は7回終了とするが、1時間40分を超えて次のイニングには進まない。
 - (3) コールドゲームは4回以降7点差とし、雨天および日没時は4回以降で試合成立とする。
 - (4) ボークについては、警告はないものとする。
 - (5) 規定回数および試合時間で勝敗が決しない場合は、特別ルールとしてタイブレークを採用する。(一死満塁で終了時より継続で行う。特別延長は1回。それでも勝敗がつかない場合は抽選(じゃんけん)で勝敗を決定する。)を続行する。
(方式:前イニングの終了時からの継続とし、無死満塁で実施する。)
 - (6) その他は、当該年度全日本軟式野球連盟制定の競技規則に準ずる。
2. 審判
 - (1) 全試合の審判は競技責任者が別途委嘱する。
3. 参加規程
 - (1) 参加登録は18名までとし、事前にチーム毎に選手登録を行うこと。
 - (2) 出場選手は選手登録者であること。登録外者や他競技との二重登録者を起用した場合、そのチームの出場を停止する。学生証コピー未提出の選手は出場不可。
 - (3) 選手は、スパイク、ユニフォームを着用した者に限る。
 - (4) ユニフォームは、全日本軟式野球連盟規則に準ずる。また、同一チームは同じユニフォームを着用すること。(揃わない場合は事前申告)
 - (5) 打者および走者はヘルメット、捕手はマスク、プロテクター、レガースを必ず着用する。
 - (6) 試合開始時刻を5分経過してメンバーが揃わないチームは、棄権とみなす。
 - (7) ベンチは、組合せ時の番号が小さいチームを1塁側とする。
 - (8) その他は、監督会議申し合わせ事項による。
4. 試合球
 - (1) 全日本野球連盟公認球「ナガセケンコーボールM号」を使用。大会本部で用意する。但し、練習球は各自で用意すること。
5. 注意事項
 - (1) 前試合の3回終了時に競技本部にて、チーム主将及び監督(引率の先生)立ち会いのもと先攻・後攻の決定を行う。その際、オーダー表を3部持参すること。
 - (2) 第1試合は9:30(初日のみ13:30)より行う。主審および塁審の判定に従うこと。
 - (3) 出場選手の交代は必ず主審に告げること。
 - (4) 試合終了後、両チームで協力をしてグラウンド整備を行うこと。ボールボーイは両チームで協力して行う。
 - (5) 天候の都合などでルール、組み合わせ及び日程、開始時間、中止を含め一部変更する場合がある。
 - (6) 大会中は禁煙とする。
 - (7) ベンチおよび応援席のゴミ等は各チームで責任を持って持ち帰ること。備え付けのゴミ箱(自販機)の使用も不可。
 - (8) 参加規程に違反または不都合な行為があった場合は、そのチームの出場を停止する。
 - (9) けが等治療のための救急箱は各チームで用意し各チームにて責任を持つこと、参加チームは事前に選手の損害保険に加入しておくこと。
 - (10) 駐車場内でのキャッチボールなどは禁止する。
 - (11) 盗難に十分注意すること。
 - (12) トイレにはトイレトペーパーは常備していないため、各自持参すること。

ソフトボール競技実施要項

1. 試合方法
 - (1) 試合は、**エントリーチーム数により、トーナメント方式またはリーグ方式で行う。**
※リーグ方式において、勝率で同率の場合は、失点の合計が少ない方を勝ちとする。
 - (2) 試合は7回終了とするが、1時間20分を超えて次のイニングには進まない。
 - (3) コールドゲームは5回以降7点差とする。
(雨天は5回以降で試合成立)
 - (4) 規定回数および試合時間内で勝敗が決しない場合は無死2塁からのタイブレークを行う。
 - (5) DP・FP・RE(エントリー)を認める。
 - (6) 試合開始前には、オーダー表[選手18名以内、主将、監督を明記]を本部に1部、審判に1部、対戦チームに1部提出する。
 - (7) その他は当該年度日本ソフトボール協会(J.S.A)ルールに準ずる。
2. 審判
 - (1) 全試合の審判は競技委員長が別途委嘱する。
3. 参加規程
 - (1) 出場チームは必ず各チーム毎に選手登録をする。
 - (2) 出場選手は選手登録者であること。登録外者や他競技との二重登録者を起用した場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
選手はスパイク(金属スパイクは不可)または運動靴を履き、ユニフォームの背部に背番号(20cm×20cm)付きの運動服に限る。
 - (3) 選手は帽子、攻撃の際打者および走者はヘルメットを必ず着用すること。
 - (4) 捕手はマスク、プロテクター、レガース、スロートガードを必ず着用すること。
 - (5) その他は、監督者会議申し合わせ事項による。
4. 試合球
 - (1) JSA検定球(ナガセケンコー3号球)を使用。大会本部が用意する。
但し、練習球は各チームで用意すること。
5. 注意事項
 - (1) 選手の交代は、主審に届け出ること。
 - (2) 判定は主審および塁審に従うこと。抗議等は監督に限る。
 - (3) トーナメント表の左側が1塁側ベンチ、右側が3塁側ベンチとする。
 - (4) 試合開始予定時刻は前の試合の終了15分後とし、それを更に5分経過しても9人以上揃わないチームは棄権とみなし失格とする。
 - (5) 球場以外での練習は全て禁止とする。
 - (6) ボールボーイは両チームが行う。
 - (7) ベンチには選手登録した者と監督、およびマネージャー以外の立ち入りを禁止とする。
 - (8) 選手はフェアプレーを心掛けること。
 - (9) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し各チームにて責任を持つこと、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。

サッカー競技実施要項

1. 試合方法
 - (1) 参加校を抽選により組合せを決定し、トーナメント戦とする。
 - (2) 試合時間は35分ハーフ(10分休み)で行い、同点の場合はPK戦とする。
ただし、決勝戦および3位決定戦が同点の場合は、延長戦(10分ハーフ・休憩なし)を行い、それでも決まらないときはPK戦を行う。
 - (3) 試合中に退場処分を受けた者は、その試合と次の試合の出場を停止する。
 - (4) 大会中に警告処分を2回受けた者は、次の試合の出場を停止する。
 - (5) その他のルールは、日本サッカー協会(J.F.A)競技規則による。
2. 審判
 - (1) 審判は公認審判員があたり、判定・グラウンドルールは審判に一任される。
 - (2) 副審については各学校で対応する。
3. 参加規程
 - (1) 選手の登録は1人につき1チームとし、複数のチームへの登録は認めない。
 - (2) 大会登録選手は1チーム最大25名までとする。
 - (3) 各試合における登録選手は1チーム16人までとし、5名までの交代を認める。
 - (4) 登録選手確認のために学生証の提示を求める場合もあるので、試合当日は学生証(コピー可)を準備しておくこと。
 - (5) 虚偽登録などの違反行為が発覚した場合は、当該チームは不戦敗とする。
 - (6) メンバー表は複写2枚を試合開始30分前までにそれぞれ本部と対戦校に提出すること。
 - (7) 試合開始時間は大会日程の試合時間を厳守し、試合開始時間までにメンバーが7人以上集まらないときは、棄権とみなし対戦相手の不戦勝とする。
 - (8) 会場作りは、当日の第1試合の両チームが行う。
 - (9) ユニフォームはチーム内同一のものとして背番号の重複がないようにし、別色の物を2種類用意すること。(紺や濃紺のシャツは審判と同色になるので、フィールド及びプレーヤー及びキーパーは使用できない色とする)
 - (10) スパイクはサッカー用とし、シンガードの着用を義務付ける。(フットサルは使用できない)
 - (11) ゴールキーパーはグローブの着用を義務付ける。
4. 試合球
 - (1) 試合球はFIFA公認5号球の「モルテン社製」とし、福専各で準備する。(空気圧は8.5)
5. 注意事項
 - (1) 腕時計やネックレス・ブレスレット・ピアス等のアクセサリー類また、眼鏡はスポーツ専用のもの以外は着用しないこと。
 - (2) 学生は審判や競技委員の指示に従い、速やかに行動すること。
 - (3) 競技場以外でのサッカー競技は禁止する。
 - (4) 学生らしく振る舞うこと。特に応援の学生が来ている学校については選手だけでなく、応援の学生についても責任をもって対処すること。
 - (5) グラウンド内では禁煙とし、ゴミは各自が持ち帰ること。(厳守)
 - (6) 不参加等の予定変更の時は前日までに事務局と対戦校に連絡すること。
 - (7) けが等の治療のために救急箱は各チームで用意し、各チームにて責任を持つこと。
参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。
 - (8) ベンチ内では選手はユニフォームを脱ぐかビブスを着用すること。
(ビブスは各チームにて用意すること)

フットサル競技実施要項

1. 試合方法
 - (1) 抽選会にて組み合わせを決定する。欠席された学校については体育委員に一任する。
 - (2) 試合時間は7分ハーフでタイムアウト無しのランニングタイムで行う。(ハーフタイムは2分間)
 - (3) 試合はリーグ戦方式を原則とするが、参加校数によってはこの限りではない。
 - (4) リーグ戦は勝ち点方式を採用する。(勝ち=3 引き分け=1 負け=0)
なお勝ち点で並んだ場合は得失点、総得点、当該チーム同士の勝敗の順番で判断する。いずれも並んだ場合は代表者によるじゃんけんにて勝敗を決する。
 - (5) 試合中に退場処分を受けた者は、その試合と次の試合の出場を停止する。
 - (6) 当大会中、警告を2回受けた者は次の1試合に出場できない。
 - (7) 原則として(公財)日本サッカー協会「フットサル競技規則」に準拠する。
ただし、相手へのスライディング行為は禁止とする。
 - (8) 男子学生の得点は1点、女子学生の得点は2点とする。
 - (9) 女子学生へのファールは原則PKとする。(PKキッカーは女子学生)
2. 審判
 - (1) 審判は審判員が行い、判定・グラウンドルールは審判に一任される。
(女子学生へのファールは厳しくジャッジするものとする)
3. 参加規程
 - (1) 選手の登録は1人1チームとし、複数のチームへの登録は認めない。
 - (2) チーム編成については男子学生のみ、女子学生のみ、男女混合いずれも良いものとする。
 - (3) 当大会への登録選手及び各試合の登録選手は1チーム最大12名までとする。
 - (4) 試合中の交代は無制限とし、交代でベンチへ退いた選手は交代要員となり再びピッチに戻る事が可能。
 - (5) アウトオブプレー、インプレーに関わらず交代可能。ただし、選手が交代ゾーンのラインより外に出るまで、交代者はピッチに入ることはできない。
 - (6) ゴールキーパーは交代者の誰とでも交代可能。
 - (7) 登録選手確認のために学生証の提示を求めらるので、試合当日は学校ごとに学生証のコピーを準備しておくこと。
 - (8) 虚偽登録などの違反行為が発覚した場合、当該チームは0-3の不戦敗とする。
 - (9) 試合開始時間は大会日程の試合時間を厳守し、試合開始時間までにメンバーが3人以上集まらないときは棄権とみなし、対戦相手の不戦勝とする。
 - (10) ユニフォームはチーム内同一が望ましいが、ビブスでも可。ただし、ソックスはチーム内で同色を着用すること。ゴールキーパーは必ず別色とする。
 - (11) シューズはフットサル用もしくはトレーニングシューズとし、すね当ての着用を義務付ける。
4. 試合球
 - (1) 試合球は「モルテン社製」とし、福専各にて準備する。
5. 注意事項
 - (1) 腕時計やネックレス・ブレスレット・ピアス等のアクセサリ類の着用は禁止する。
また、メガネはスポーツ専用のもの以外は着用しないこと。
 - (2) 学生は審判や競技委員の指示に従い、速やかに行動すること。
 - (3) 学生らしく振る舞うこと。特に応援の学生が来ている学校については選手だけでなく、応援の学生についても責任をもって対処すること。
 - (4) 会場内では禁煙とし、ゴミは各自で持ち帰ること。
 - (5) 不参加等の予定変更の時は前日までに事務局と対戦校に連絡すること。
 - (6) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、各チームにて責任を持つこと。参加チームは事前に損害保険に加入しておくこと。
 - (7) ベンチ内ではユニフォームを脱ぐかビブスを着用すること。(ビブスは各チームにて用意すること)

バレーボール競技実施要項

1. 試合方法
 - (1) 当該年度日本バレーボール協会(JVA)6人制規則に準ずる。
例:タッチネット「ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則である。」
 - (2) ネットの高さは、男子2.43m、女子2.24mとする。
 - (3) 試合は1・2セット目が25点、3セット目が15点のラリーポイント制で3セットマッチ(2セット先取)とする。
 - (4) 試合開始前に主審へラインアップシートを提出する。
 - (5) リベロシステムを採用する。
※リベロプレーヤーは2名登録可能(コート内へ入れるのは1名のみ)
キャプテンとリベロは兼任できず、リベロ交代時にはワンプレーはさむ。
 - (6) 予選リーグにおいて、勝敗が同率の場合の順位決定は、原則としてセット数とする。
セット数も同率の場合は、得失点差とする。
2. 審判
 - (1) 審判は、競技委員長が別途委嘱する。
 - (2) 各チームから副審1名、ラインズマン4名、得点係2名、記録係1名計8名を出すこと。
(※タイムスケジュール参照)
3. 参加規程
 - (1) チーム編成は、部長・監督・コーチ・マネージャー・トレーナー各1名と、選手14名(14名となる場合はその中にリベロ2名を必ず含む)の計19名以内とする。これ以外の方は、ベンチ及びコートに試合中は入ることができない。
部長・監督・コーチ・マネージャー・トレーナーはそれぞれ部長章・監督章・コーチ章・マネージャー章・トレーナー章を胸につけること。
 - (2) 選手は、選手登録した者であること。それ以外の者を起用(ベンチ入りを含む)したり、二重登録をしたチームは失格とする。
 - (3) 試合当日の集合時間に出場選手の学生証のコピーとメンバー表を大会本部へ提出すること。
4. 試合球
 - (1) モルテン社製「フリストテック」検定球5号とし、大会本部で用意する。
5. 注意事項
 - (1) 必ず体育館シューズを使用すること。
 - (2) 服装は揃いのユニフォームか、胸と背にゼッケン(20cm×20cm)をつけた運動服(短パン)に限る。ゼッケンは上段に学校名(略称可)を、下段に番号(数字の幅は2cm以上の太字)を明記すること。(リベロプレーヤーは、リベロとはっきり分かるユニフォーム又はビブスを着用のこと。)
 - (3) キャプテンは、胸の番号の下にキャプテンマーク(1.5cm×8cm)を付けること。
 - (4) 大会期間中の会場での選手は喫煙は禁止とする。
 - (5) ベンチおよび応援席のゴミ等は各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (6) 原則として試合開始予定時刻は、直前の試合の終了5分後とし、それをさらに5分経過しても選手が揃わないチームは棄権とみなす。
 - (7) カメラマンによる撮影は試合に支障をきたさない限りで可能だが、試合中のカメラのフラッシュは禁止とする。
 - (8) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。

バスケットボール競技実施要項

1. 試合方法
 - (1) 男女共にトーナメント方式とする。(参加チームの数によってはリーグ戦も検討)
 - (2) 4クォーター制とし、各10分、インターバル2分、ハーフタイム10分とする。
 - (3) その他は当該年度、日本バスケットボール協会(JBA)制定の競技規則に準ずる。
 - (4) コートは、新しいラインのコートを使用し、競技ルールも新ルールとする。
2. 審判
 - (1) 審判は競技委員長が別途委嘱する。
 - (2) 試合当日、第1試合のオフィシャル・得点係・フロアー係は、第3試合の両チームより各4名ずつ出すこと。試合時間になってもオフィシャルが集まらない場合はチームを失格とする場合もある。
2試合目以降は、前試合の敗者チームよりオフィシャル4名・得点係2名、フロアー係2名の合
 - (3) 各日、最後の試合で敗戦したチームは翌日のオフィシャルは無しとし、翌日1試合目のオフィシャルは(2)の通り第3試合の両チームより各4名ずつ出す。
3. 参加規程
 - (1) 大会当日の試合開始予定時間1時間30分前までに、メンバー表と学生証のコピーを本部席に提出すること。
 - (2) 大会当日の試合開始予定時間30分前までに、メンバー表とオフィシャル及び対戦チームにそれぞれ1部ずつ提出すること。
 - (3) チーム構成は、監督・コーチ・マネージャー各1名と、選手15名の計18名以内とし、全員メンバー表に記入すること。メンバー表に書かれていない者はベンチに入ることができない。
 - (4) 同じ学校同士であっても試合に出場している選手は、マネージャー等を含め他チームのベンチに入ることを禁止する。
 - (5) 出場選手は、そのチームの学校の学生であること。それ以外の者を起用(ベンチ入りを含む)したり、二重登録などの不正出場をしたチームは、出場停止され失格となる。
 - (6) 服装は揃いのユニフォームもしくはビブスの濃淡2着を用意し、背番号は0番から2桁の番号であれば認める。試合当日、いずれかを着用していないチームは失格とする場合もある。
 - (7) ユニホーム規定の改定に伴い、パンツの長さはひざ上までとする。ただし、すぐに準備できない学校については移行期間を設ける。
 - (8) ベンチは抽選番号の若いチームがオフィシャルに向かって右側とし、ユニフォームの色は淡色、左側のチームが濃色とする。
 - (9) 出場選手は、学生証を常に携帯し、監督又はキャプテンは出場選手全員の学生証のコピーを持参しておくこと。
4. 試合球
 - (1) 男子は、Molten社製JBA検定球7号天然革、女子は、同社製同検定球6号天然革を使用し、黒マジックでチーム名を明記した試合球を1球用意すること。その他練習球は、各自で用意すること。
5. 注意事項
 - (1) 競技場内は全て禁煙とする。
 - (2) 喫煙所等、屋外に出る際は、必ず屋外用の履物に履き替えること。
バスケットシューズ等の屋内の履物のまま、屋外に出ることは厳禁。
 - (3) ベンチおよび応援席のごみ等は、各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (4) 試合開始予定時刻を5分経過しても選手が揃わないチームは棄権と見なし、不戦敗とする。
 - (5) 審判の判定に従い、質問はキャプテンを通して申し出ること。
 - (6) 観客の応援は自チームベンチ側の応援席からのみとし、ベンチ上や相手チームのベンチ上からの
けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。

卓球競技(団体)実施要項

1. 試合方法
 - (1) 男女共国体方式3名とする。
 - (2) 4シングルと1ダブルスの5マッチ(試合)を行い、3マッチ先取したチームを勝ちとする。
試合順はシングル、シングル、ダブルス、シングル、シングルとする。
試合順 1 2 3 4 5
(ABC) A B BC A C
(XYZ) X Y XZ Y Z
※ A、Yはシングルのみ(例:一番強い選手を充てることが多い)
※ (ABC)(XYZ)はジャンケンで決める
 - (3) 1マッチ(試合)は1ゲーム11点のゲームマッチにより3ゲームを先取したチームを勝ちとする。
 - (4) その他は当該年度の日本卓球協会(JTTA)制定の競技規則に準ずる。
2. 審判
 - (1) 競技責任者が割り当てする。
3. 参加規程
 - (1) 出場選手は選手登録者であること。登録外者や他競技との二重登録者を起用した場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (2) ユニフォームは白上衣着用を禁止。どうしても白を取り入れたい場合、袖のみ可。
 - (3) 試合開始時刻は、前試合終了5分後とし、さらに5分経過しても試合会場(コート)にこない選手は棄権とみなす。
 - (4) その他は監督会議申し合わせ事項による。
4. 試合球
 - (1) Nittakuプラボール(3スター)を使用。大会本部が用意する。
但し練習球は各自で用意すること。
5. 注意事項
 - (1) ラケットの両面にラバーを張る場合は異色にし、はみ出るラバーは2mm以内とする。
 - (2) 参加規程に違反し、または不都合な行為があった場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (3) 競技中の事故については、主催者側にて応急処置を行うが、その後の処置は各チームにて責任を持つこと。
 - (4) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。
 - (5) 競技が終わった学校も最後まで残ること。(団体戦のみ)
 - (6) ベンチおよび応援席のごみ等は各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (7) 大会中は禁煙とする。

卓球競技(個人)実施要項

1. 試合方法
 - (1) 男女共予選リーグ、決勝トーナメントとする。
 - (2) 1マッチ(試合)は、1ゲーム11点の5ゲームマッチにより3ゲーム先取した者を勝ちとする。
 - (3) その他は当該年度の日本卓球協会(JTTA)制定の競技規則に準ずる。
2. 審判
 - (1) 競技責任者が割り当てる。
3. 参加規程
 - (1) 出場選手は選手登録者であること。登録外者や他競技との二重登録者を起用した場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (2) 選手は、競技用シューズまたは体育館用運動靴を履き、背部にゼッケン(20cm×20cm)を付けたユニホームまたは運動服を着用した者に限る。
※ゼッケンには、上段に学校名(略称可)、下段には氏名を明記すること。
 - (3) 試合開始時刻は、前試合終了5分後とし、さらに5分経過しても試合会場(コート)に来ない選手は棄権とみなす。
 - (4) その他は監督会議申し合わせ事項による。
4. 試合球
 - (1) Nittakuプラボール(3スター)を使用。
大会本部が用意する。但し練習球は各自で用意すること。
5. 注意事項
 - (1) ラケットの両面にラバーを張る場合は異色にしなければならない。
 - (2) 参加規程に違反し、または不都合な行為があった場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (3) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。
 - (4) ベンチおよび応援席のごみ等は各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (5) 大会中は禁煙とする。。

硬式テニス競技(団体)実施要項

1. 試合方法
 - (1) 試合はトーナメント方式とする。
初戦は全試合実行する。2回戦からは、ポイントが決まった時点で打ち切る。
 - (2) それぞれ、6ゲーム先取、ノーアドバンテージ方式とする。
(但し、決勝のみ1セットマッチ6-6の場合、7ポイントタイブレークを行う)
 - (3) 試合順は、ダブルスNo.1→シングルスNo.1→シングルスNo.2とする。
 - (4) 勝敗が決まらない場合は得失点差による。
 - (5) 登録は6人までとし、各順位を明確にし、事前に協会に提出すること。
 - (6) その他は、当該年度日本テニス協会制定の競技規則に準ずる。
2. 審判
 - (1) 審判は、本部の指示に応じること。
 - (2) 試合終了後、審判の指示に従うこと。
3. 参加規程
 - (1) 選手はダブルス、シングルス両方の出場を兼ねることを認める。
 - (2) 出場選手は選手登録者であること。登録外者や他競技との二重登録者を起用した場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (3) 選手は競技用シューズを履き、背部にゼッケン(20cm×20cm)をつけたユニフォームまたは運動服を着用した者に限る。
※ゼッケンは、上段に学校名(略称可)を、下段に個人名を明記すること。
※ゼッケンがない選手は出場できない。
 - (4) ラケットは硬式テニス専用のものを各自用意すること。
 - (5) 試合開始時刻は前試合終了5分後とし、さらに5分経過しても試合会場に来ない選手は棄権とみなす。
 - (6) その他は監督者会議申し合わせ事項による。
4. 試合球
 - (1) 各メーカーの公認球を使用。※大会本部が用意する。但し、練習球は各自で用意すること。
5. 注意事項
 - (1) 8:30受付 8:45監督会議 9:00試合開始とする。
 - (2) 試合進行上、選手は常にテニスコート周辺にて待機しておくこと。
 - (3) 大会運営の都合等でルール、組み合わせおよび日程を、中止を含め一部変更する場合がある。
 - (4) 参加規程に違反、または不都合な行為があった場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (5) 全試合とも試合終了後はコート整備を行い、ゴミ等は各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (6) 大会中は禁煙とする。
 - (7) けが等の治療のために救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。

硬式テニス競技(個人)実施要項

1. 試合方法
 - (1) 男女ともシングルス、トーナメント方式とする。
 - (2) それぞれ、6ゲーム先取、ノーアドバンテージ方式とする。
(SFより1セットマッチとする。6-6の場合は7ポイントタイブレークを行う。)
 - (3) その他は当該年度日本テニス協会制定の競技規則に準ずる。
2. 審判
 - (1) 基本的に個人戦はセルフジャッジで行う。
 - (2) 試合が終わるごとに結果を競技本部に届けること。
 - (3) 各コートにロービングアンパイアがいるので、何かあったらアンパイアに届け出ること。
3. 参加規程
 - (1) 出場選手は選手登録者であること。登録外者や他競技との二重登録者を起用した場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (2) 選手は競技用シューズを履き、背部にゼッケン(20cm×20cm)をつけたユニフォームまたは運動服を着用した者に限る。
※ゼッケンは上段に学校名(略称可)を、下段に個人名を明記すること。
※ゼッケンがない選手は出場できない。
 - (3) ラケットは硬式テニス専用のを各自用意すること。
 - (4) 試合開始時刻は前試合終了5分後とし、さらに5分経過しても試合会場に来ない選手は棄権とみなす。
 - (5) その他は監督会議申し合わせ事項による。
4. 試合球
 - (1) 各メーカーの公認球を使用。
※大会本部が用意する。但し、練習球は各自で用意すること。
5. 注意事項
 - (1) 試合進行上、選手は常にテニスコート周辺にて待機しておくこと。
 - (2) 試合を行う選手以外はテニスコート内の立ち入りを禁止する。
 - (3) 大会運営の都合等でルール、組み合わせおよび日程を、中止を含め一部変更する場合がある。
 - (4) 参加規程に違反、または不都合な行為があった場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (5) 全試合とも試合終了後はコート整備を行い、ゴミ等は各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (6) 大会中は禁煙とする。
 - (7) けが等の治療のために救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。

ソフトテニス競技(団体)実施要項

1. 試合方法
 - (1) 男女ともリーグ及びトーナメント方式で行う。
 - (2) 決勝トーナメントにおいては2点先取とする。
 - (3) 試合は、3位決定戦を行う。
 - (4) その他平成29年度日本ソフトテニス連盟ソフトテニスハンドブックに準ずる。
2. 審判
 - (1) 相互審判とする。
 - (2) 対戦終了後、勝者チームは対戦結果を競技本部に持ってくること。
3. 参加規程
 - (1) チーム編成は、監督1名、選手6名以上8名以内の選手登録をすること。
登録以外者及び他競技との二重登録者の出場を禁ずる。出場をした場合は、失格とする。
※選手が4名以上でも参加することが出来る。但し、3番目を棄権とすること。
 - (2) ユニフォーム背部には、ゼッケン(B5横サイズ)を付けること。
※ゼッケンは、上段(県名)、中段(氏名)、下段(学校名)略称可を明記すること。
但し、上段(氏名)、下段(学校名-略名可)でもよい。
 - (3) ゼッケンが無い選手は、出場できない。
4. 試合球
 - (1) JSTA公認球(ケンコー)とする。
5. 注意事項
 - (1) 大会運営の都合等でルール・組合せ・日程中止を含め一部変更する場合がある。
 - (2) 受付開始:8時30分、開会式:8時50分、第13コートにて行う。
 - (3) 試合進行上、選手は常にテニスコート周辺に待機すること。試合開始時間は、開会式終了後指定する。以後は前試合終了5分後とする。さらに5分経過しても対戦チームが試合コートに入らない場合は棄権とみなす。
 - (4) 試合を行うチームの監督・選手以外は試合コート内に入らないこと。
 - (5) 参加規程に違反、又は不都合な行為があった場合はそのチームの出場を停止・失格とする。
 - (6) ケガ等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。
 - (7) 試合終了後は、コート整備を行いゴミ等は各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (8) その他は、監督者会議申合せ事項による。
 - (9) 大会中は禁煙とする。

ソフトテニス競技(個人)実施要項

1. 試合方法
 - (1) 男女ともリーグ及びトーナメント方式で行う。
 - (2) 7ゲームマッチで行い、4ゲーム先取した方が勝ちとする。
 - (3) 試合は、3位決定戦を行う。
 - (4) その他平成29年度日本ソフトテニス連盟ソフトテニスハンドブックに準ずる。
2. 審判
 - (1) 第1試合は本部が指名する。その後は敗者審判とする。但し、審判が出来ないペアについては本部より補助する。
 - (2) 対戦終了後、勝者チームは対戦結果表を競技本部に持ってくること。
3. 参加規程
 - (1) 出場選手は選手登録をすること。登録以外者や他競技との二重登録者の出場を禁ずる。出場した場合は、失格とする。
 - (2) ユニフォーム背部には、ゼッケン(B5横サイズ)を付けること。
※ゼッケンは、上段(県名)、中段(氏名)、下段(学校名)略称可を明記すること。
但し、上段(氏名)、下段(学校名-略名可)でもよい。
 - (3) ゼッケンがない選手は出場できない。
4. 試合球
 - (1) JSTA公認球(ケンコー)とする。
5. 注意事項
 - (1) 大会運営の都合等でルール・組合せ・日程中止を含め一部変更する場合がある。
 - (2) 受付開始:8時30分、開会式:8時50分、第13コートにて行う。
 - (3) 試合進行上、選手は常にテニスコート周辺に待機すること。試合開始時間は、開会式終了後指定する。以後は前試合終了5分後とする。さらに5分経過しても対戦ペアが試合コートに入らない場合は棄権とみなす。
 - (4) 試合を行うチームの監督・選手以外は試合コート内に入らないこと。
 - (5) 参加規程に違反、又は不都合な行為があった場合はそのペアの出場を停止・失格とする。
 - (6) ケガ等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。
 - (7) 試合終了後は、コート整備を行いゴミ等は各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (8) その他は、監督者会議申合せ事項による。
 - (9) 大会中は禁煙とする。

バドミントン競技(団体)実施要項

1. 試合方法
 - (1) 当該年度、日本バドミントン連盟競技規則に準ずる。
 - (2) トーナメント方式
 - (3) 1チーム4～8名による複、複、単(2D1S)とする。
(同一選手が複、単に重複して出場できる。しかし複に重複して出場できない)
D2連勝した場合Sは行わない。
(3ゲーム1セット2ゲーム先取)
(単複共に1ゲーム21点、延長ゲームは20点から2点差で30点打ち止め)
 - (4) 試合の進行状況によっては特別ルールを適用する。
 - (5) 冷房を入れているため、シャトルがコートにより少し流れる場合がある。
(極力風量を抑えている)
2. 審判
 - (1) 主審は競技委員長が別途委嘱する。(原則:社会人クラブチーム)
 - (2) 線審は各チームから1人選出。
 - (3) 補助員(得点板)は審判の依頼により速やかに出ること。
3. 参加規程
 - (1) 必ず体育館シューズを使用すること。
 - (2) 選手は原則襟付きのシャツを短パンまたはジャージに入れておくこと。
服装に関してはユニフォーム等の厳しい規程を設定しない代わりに、バドミントン競技を行うに相応しい服装を指導してください。(アロハシャツや派手な刺繍のシャツなどは不相当)
Tシャツは、季節、試合数及び経済面を考慮して可とする。
監督者はデザイン等競技を行うに相応しいものを指導すること。
 - (3) 選手は背面にゼッケン(20cm×20cm程度)をつけること。
ゼッケンは上段に個人名、下段に学校名(グループ校の区別を明記)を黒マジックで明記すること。
 - (4) 出場選手は登録選手であること。登録外者や二重登録者を起用した場合は、出場停止とする。
4. 試合球
 - (1) 団体戦で各校(1ダース/学校)より提出されたものを使用する。
 - (2) 団体戦に出場しない学校は(半ダース/学校)提出する。
 - (3) シャトルはヨネックス社製NEW OFFICIALとする。(シャトルは2番を推奨する)
5. 注意事項
 - (1) 各試合の開始は直前の試合終了後、速やかに行う。
5分経過しても選手が現れない場合は棄権とする。
 - (2) 競技場内は飲食禁止、禁煙とする。
 - (3) 応援席などの貴重品の管理を十分行うこと。
 - (4) 体育館のゴミ箱を使用せずに必ず持ち帰ること。
 - (5) 体育館周辺にでも同様に吸殻、ごみ等のポイ捨てをしない。
 - (6) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保入しておくこと。

バドミントン競技(個人)実施要項

1. 試合方法
 - (1) 当該年度、日本バドミントン連盟競技規則に準拠する。
 - (2) トーナメント方式
 - (3) 男女共にシングルの個人戦とする。
1回戦から準々決勝より前まで(準々決勝含まない)
1マッチ(1試合)は21点1ゲーム(1ゲームのみ)
20点より2点差で30点打ち止め
準々決勝以降(準々決勝含む)
1マッチ(1試合)は21点3ゲーム(2ゲーム先取)
20点より2点差で30点打ち止め
 - (4) 試合の進行状況によっては特別ルールを適用する。
 - (5) 冷房を入れているため、シャトルがコートにより少し流れる場合がある。
(極力風量を抑えている)
2. 審判
 - (1) 主審は競技委員長が別途委嘱する。(原則: 社会人クラブチーム)
 - (2) 線審は各チームから1人選出。
 - (3) 補助員(得点板)は審判の依頼により速やかに出ること。
3. 参加規程
 - (1) 必ず体育館シューズを使用すること。
 - (2) 選手は原則襟付きのシャツを短パンまたはジャージに入れておくこと。
服装に関してはユニフォーム等の厳しい規程を設定しない代わりに、バドミントン競技を行うに相応しい服装を指導してください。(アロハシャツや派手な刺繍のシャツなどは不適當)
Tシャツは、季節、試合数及び経済面を考慮して可とする。
監督者はデザイン等競技を行うに相応しいものを指導する。
 - (3) 選手は背面にゼッケン(20cm×20cm程度)をつけること。
ゼッケンは上段に個人名、下段に学校名(グループ校の区別を明記)を黒マジックで明記すること。
 - (4) 出場選手は登録選手であること。登録外者や二重登録者を起用した場合は、出場停止とする。
4. 試合球
 - (1) 団体戦で各校(1ダース/学校)より提出されたものを使用する。
 - (2) 団体戦に出場しない学校は(半ダース/学校)提出する。
 - (3) シャトルはヨネックス社製NEW OFFICIALとする。(シャトルは2番を推奨する)
5. 注意事項
 - (1) 各試合の開始前は直前の試合の終了後、速やかに行う。
5分経過しても選手が現れない場合は棄権とする。
 - (2) 競技場内は飲食禁止、禁煙とする。
 - (3) 応援席などの貴重品の管理を十分行うこと。
 - (4) 体育館のゴミ箱を使用せずに必ず持ち帰ること。
 - (5) 体育館周辺にても同様に吸殻、ごみ等のポイ捨てをしない。
 - (6) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保入しておくこと。

バドミントン競技(ダブルス)実施要項

1. 試合方法
 - (1) 当該年度、日本バドミントン連盟競技規則に準拠する。
 - (2) トーナメント方式
 - (3) 男女共にダブルスの個人戦とする。
1回戦から準々決勝より前まで(準々決勝含まない)
1マッチ(1試合)は21点1ゲーム(1ゲームのみ)
20点より2点差で30点打ち止め
準々決勝以降(準々決勝含む)
1マッチ(1試合)は21点3ゲーム(2ゲーム先取)
20点より2点差で30点打ち止め
 - (4) 試合の進行状況によっては特別ルールを適用する。
 - (5) 冷房を入れているため、シャトルがコートにより少し流れる場合がある。
(極力風量を抑えている)
2. 審判
 - (1) 主審は競技委員長が別途委嘱する。(原則: 社会人クラブチーム)
 - (2) 線審は各チームから1人選出。
 - (3) 補助員(得点板)は審判の依頼により速やかに出ること。
3. 参加規程
 - (1) 必ず体育館シューズを使用すること。
 - (2) 選手は原則襟付きのシャツを短パンまたはジャージに入れておくこと。
服装に関してはユニフォーム等の厳しい規程を設定しない代わりに、バドミントン競技を行うに相応しい服装を指導してください。(アロハシャツや派手な刺繍のシャツなどは不適當)
Tシャツは、季節、試合数及び経済面を考慮して可とする。
監督者はデザイン等競技を行うに相応しいものを指導する。
 - (3) 選手は背面にゼッケン(20cm×20cm程度)をつけること。
ゼッケンは上段に個人名、下段に学校名(グループ校の区別を明記)を黒マジックで明記すること。
 - (4) 出場選手は登録選手であること。登録外者や二重登録者を起用した場合は、出場停止とする。
4. 試合球
 - (1) 団体戦で各校(1ダース/学校)より提出されたものを使用する。
 - (2) 団体戦に出場しない学校は(半ダース/学校)提出する。
 - (3) シャトルはヨネックス社製NEW OFFICIALとする。(シャトルは2番を推奨する)
5. 注意事項
 - (1) 各試合の開始は直前の試合の終了後、速やかに行う。
5分経過しても選手が現れない場合は棄権とする。
 - (2) 競技場内は飲食禁止、禁煙とする。
 - (3) 応援席などの貴重品の管理を十分行う。
 - (4) 体育館のゴミ箱を使用せずに必ず持ち帰ること。
 - (5) 体育館周辺にても同様に吸殻、ごみ等のポイ捨てをしない。
 - (6) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保入しておくこと。

剣道競技実施要項

1. 試合方法
 - (1) (財)全日本剣道連盟剣道試合・審判規則同細則および本大会実施要項による。
 - (2) 団体・個人戦はリーグ戦もしくはトーナメントとする。
 - (3) 試合は、団体戦→個人戦の順で行う。
 - (4) 団体・個人戦ともに、試合時間は4分間、3本勝負とする。
 - (5) 団体戦は、男子5試合(先鋒、次鋒、中堅、副将、大将)、女子3試合(先鋒、中堅、大将)とする。勝敗が決していてもすべての試合を行う。
 - (6) 団体戦において、時間内に勝敗が決しない場合は引き分けとする。
 - (7) 団体戦において、リーグ戦は時間内に勝負がつかない場合は、引き分けとする。勝敗、本数も同数の場合は順位決定戦を行う。リーグ戦での順位決定戦、トーナメントでの引き分けの場合は、任意の代表者による一本勝負を行う。時間は区切らない。
 - (8) 個人戦において、時間内に勝負が決しない場合は、リーグ戦は引き分け、トーナメントは勝負の決するまで延長戦を行う。時間は区切らない。

2. 審判
 - (1) 競技責任者が別途委嘱する。
 - (2) 得点係、時計係、記録係(4名/1試合場)は、競技委員会が別途委嘱する。

3. 参加規程
 - (1) 団体戦は、以下の登録とする。
 - 男子:監督1名・選手5名・補欠2名
 - 女子:監督1名・選手3名・補欠1名男子は3名以上、女子は2名より参加可能とする。
ただし不戦の場合は、男子は次鋒、副将の順に、女子は中堅を除くこととする。
 - (2) 出場選手は選手登録者に限る。登録者以外の者や他の競技との二重登録者を起用した場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (3) 竹刀については、次の通りとする。
 - 長さは男女とも、120センチ以内とする。
 - 重さは、男子510g以上、女子440g以上とする。
 - テープを巻くなど、破損したものは使用禁止とする。
 - 竹刀の中に異物を入れてはいけない。
 - 不正使用を発見した場合は反則負けとする。
 - 鏢は、必ず所定の位置に固定すること。
 - (4) 面紐の長さは、結び目から40センチ以内とする。
 - (5) 垂に名札[学校名(省略可)・名前]を着用すること。
 - (6) 紅白の目印(長さ70センチ、幅5センチ)は、各校準備すること。

4. 注意事項
 - (1) 試合進行上、選手は常に試合場周辺にて待機すること。
 - (2) 選手は、進行役員の指示に従って競技する。
 - (3) 応援席など会場内でのゴミ等は、各チームで責任を持って持ち帰ること。
 - (4) 各チームや選手個人の持ち物は自主管理とし、各自で責任を持って管理すること。
 - (5) 競技中の事故については、主催者側の応急措置は行うが、その後の処理は各チームにて責任を持つこと。
 - (6) ウォーミングアップなどの事前練習は、別会場を用意していないので、空きスペース等にて各チーム協力して使用すること。また、使用後は道場の整備を行うこと。
 - (7) 駐車場がないため、近くの有料駐車場をご利用ください。
 - (8) 大会期間中は禁煙とする。
 - (9) 競技に関する問い合わせ先は以下の通りです。
体育委員(剣道) 専門学校 福岡カレッジ・オブ・ビジネス 牛嶋 建二
〒810-0052 福岡県福岡市中央区大濠2-8-13 TEL092-741-1120 携帯080-5207-3669

弓道競技実施要項

1. 試合方法
 - (1) 全日本弓道連盟の競技規則に準ずる。
 - (2) 近的競技とし、36cm霞的を使用する。
 - (3) 競技は3人又は4人一組 四ツ矢三立(12射)計36射とし、的中数により決定する。参加人数により変更になる場合がある。
 - (4) 同中の場合、以下の方法にて決定する。
個人競技の場合、決勝は射詰めにより決定し、他は遠近法による。
 - (5) 筈こぼれは失格とする。
2. 審判
 - (1) 審判は実行委員長が別途委嘱する。(福岡弓道連盟のご後援及びご指導頂く)
3. 参加規程
 - (1) 競技日の受付時間(12:00～12:50)迄に正当な理由なく選手が会場に来ない場合は、棄権とみなす。
 - (2) 出場選手は、登録者に限る。登録外者や他の競技との二重登録者を起用した場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。やむなく追加を希望する場合は、競技委員長へ申し出を行う。
 - (3) 選手は、弓具一式を用意する。
 - (4) 選手は、弓道衣と袴と白足袋を着用することを原則とし、ゼッケンを袴の右側に付ける。
 - (5) ゼッケンは15cm×15cmで上段に学校名(略称可)、下段に氏名を明記すること。
4. 注意事項
 - (1) 参加規程に違反または不都合な行為があった場合はそのチームの出場を停止する。
 - (2) 選手の技量によっては、事故防止の為競技当日に参加を認めない場合がある。
 - (3) 選手は、競技委員及び審判の指示に従って競技する。
 - (4) 競技時の立ち順は、選手登録の名簿順とする。
 - (5) 応援席など会場内でのゴミ等は、各チームで責任を持って持ち帰ること。
 - (6) 各チームや選手個人の持ち物は、各自で責任を持って管理すること。
 - (7) 競技中の事故については、各チームの責任で処置すること。
併せて、事前に選手は傷害保険に加入しておくこと。
 - (8) 危険防止の為競技中のピアスは、禁止とする。
 - (9) 巻藁練習は、12:00～可能とします。
 - (10) 会場専用駐車場の利用出来ます。